

平成29年度 評価表(案)

(P1～P4 県立広島病院
P5～P7 県立安芸津病院)

【平成29年度 評価表(広島病院)】

取組方針	取組総括	自己評価	委員会 評価案	委員会意見 (とりまとめ案)
I 医療機能の強化				
① 救急医療の強化	<ul style="list-style-type: none"> 救急受入の応需率向上の取り組みを続けた事により、救急車受入台数が前年から大きく増加し、目標を達成した。 ドクターヘリの運航体制への支援に引き続き取り組んだ。 	◎	◎	<p>救急車受入台数などの指標は全て前年を上回り、機能強化がうかがえる。消防隊による受入医療機関の選定困難事案を最も受け入れているなど、評価できる。</p> <p>また、地域貢献に留まらず病院の売りにしようとの積極的な意図が読める。</p> <p>一方で、県立病院に期待される三次救急は、二次救急医療機関からの転送を100%受け入れることにあると思われる。目標指標として二次救急からの受け入れ率を入れると良い。</p>
② 脳心臓血管医療の強化	<ul style="list-style-type: none"> 脳心臓血管センターの新規入院患者数が目標を達成した。 血管内治療・インターベンション治療件数(PCI)が前年から増加した。 	◎	◎	<p>複数診療科横断の先駆的取組の成果が、入院・手術・リハビリの対応件数の増加に表れており、当該分野の機能強化が認められる。</p> <p>一方で、病院間連携における役割を明確にすること、脳心臓血管センターの県民の認知度をあげる取組を進める必要があると考える。</p>
③ 成育医療の強化	<ul style="list-style-type: none"> 超低出生体重児の受入増加や、ハイリスク分娩の受入増加など、成育医療センターとして地域の周産期医療に貢献し、受入患者数が目標を達成した。 	○	◎	<p>ハイリスクの妊娠分娩に対応する県の総合周産期医療センターとして、緊急搬送の新生児や母体受入に努力していることや、1,000g未満の超低出生体重児の受入が増えているなど、最後の砦として機能しているものと評価する。</p> <p>一方で、生殖医療科の重点目標の採卵件数が目標未達成となった原因分析と対策を図る必要がある。</p> <p>また、若手産婦人科医・保健師・助産婦を引き付ける魅力があるかどうか。</p>
④ がん医療の強化	<ul style="list-style-type: none"> がん患者数(入院)は前年より増加したが、目標を下回った。 消化器センターと呼吸器センターの新規入院患者数が目標を達成した。 	○	○	<p>診療科横断のセンターの新規入院が増加していることは評価できる。</p> <p>一方で、重点3分野の一つであるがん医療において、がん患者数が目標を下回ったのは残念であり、近年のがん医療の均てん化に伴い、県立病院に期待されるがん医療は、治療困難な癌腫や進行ステージであると思われるので、それを表現する指標を検討してほしい。</p> <p>また、地域連携/バスやHIPRACの活用増加を期待する。</p>
⑤ 医療安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> 転倒・転落発生率(レベル2以上)が前年より改善し目標を達成した。 医療安全等の研修会に職員の参加を促進し、年2回以上の職員参加の割合が向上した。 	○	◎	<p>転倒転落発生率がわずかが改善し、アクシデントへの対応もきちんとしており、評価できる。</p> <p>また、研修会も熱心に行われており、医療の基本的な前提として、引き続き努力してほしい。</p> <p>今後も、転倒・転落発生率の改善に努めてほしいが、患者のみが医療安全のステークホルダーではないように思われる。</p>

委員 評価	委員意見 (各異見)
◎7 ○1	<ul style="list-style-type: none"> 消防隊による受入医療機関の選定困難事案を最も受け入れていることは評価できる。また、目標指数として二次救急からの受け入れ率を入れると良い。(香川) 救急車受入率は上昇、困難事案を市内最多で受け入れており、評価できる。(木倉) 地域貢献に留まらず病院の売りにしようとの積極的な意図が読める。(木原) 県立病院に期待される三次救急は、二次救急医療機関からの転送を100%受け入れることにあると思われる。それによって、二次救急のアクティビティが増すことを期待できる。(谷田) 応需率向上のため受入ルールを明確化し、その結果、受入要請応需率のアップ、選定困難事案では市内一位となるなどの実績も得られている。(平谷) 救急車受入台数など指標は全て前年を上回り、機能強化がうかがえる。(吉村)
◎4 ○4	<ul style="list-style-type: none"> 新規の項目だが、複数診療科横断の先駆的取組の成果が、入院・手術・リハビリの対応件数の増加に表れている。(木倉) 病院間連携における役割を明確にする必要がある。(木原) 初年度ということもあり、計画達成のみを評価した。(谷田) 課題にある、脳心臓血管センターの県民の認知度をあげる取組を進める必要があると考える。(平谷) 新規入院患者数も大きく増加したうえ、血管内治療件数・急性期のリハ件数も伸びるなど、当該分野の機能強化が認められる。(吉村)
◎4 ○4	<ul style="list-style-type: none"> 生殖医療科の重点目標である採卵件数の目標未達成の原因分析と対策を図りたい。(香川) ハイリスクの妊娠分娩に対応する県の総合周産期医療センターとして、緊急搬送の新生児や母体受入に努力している。(木倉) 若手産婦人科医・保健師・助産婦を引き付ける魅力があるか。(木原) 最後の砦として機能しているものと評価する。(谷田) NICU・GCUの実績から。(平谷) NIGU・GCUは目標をクリアしており、とりわけ1,000g未満の超低出生体重児の受入が増えており、評価できる。(吉村) NICUの実績が前年実績に届かなかった。目標値が低いのではないかと。(和田)
◎1 ○7	<ul style="list-style-type: none"> 診療科横断のセンターの新規入院が増加し、効果が出ている。また、地域連携/バスやHIPRACの活用増加を望む。(木倉) どういう病院をめざしているのか、ステークホルダーをどう設定しているのか、なんでも一番になることが目標なのか。(木原) 近年のがん医療の均てん化に伴い、県立病院に期待されるがん医療は、治療困難な癌腫や進行ステージであると思われるので、それを表現する指標を検討してもらいたい。(谷田) 目標は達成していないものの、患者数の上昇傾向は続いていることを評価したい。(平谷) 重点3分野の一つがん医療において、患者数が目標を下回ったのは残念。(吉村) がん患者の目標を下回った点。(和田)
◎5 ○3	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、転倒・転落発生率の改善に努めてほしい。(香川) アクシデントはやや増えたが、研修会も熱心に行われており、医療の基本的な前提として、引き続き努力してほしい。(木倉) 患者のみが医療安全のステークホルダーではないように思う。(木原) 資料からしか分からないが、アクシデント件数が増え、アクシデント情報共有に課題があるとするれば、◎はつけられないと考える。(平谷) 転倒転落発生率もわずかが改善し、アクシデントへの対応もきちんとしている。(吉村)

【平成29年度 評価表(広島病院)】

取組方針	取組総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見 (とりまとめ案)
I 医療機能の強化				
⑥ 医療の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルパス使用率が前年を下回った。 ・臨床検査部門における国際標準化機構(ISO)の認定を取得した。 	○	○	<p>DPC II 群継続。臨床検査部門のISO取得を評価するとともに、他病院と比較した臨床指標の公開など、分かりやすい見える化が進められている。</p> <p>また、認知症ケアや精神科リエゾンが新しく始動するなど、チーム医療の充実が伺える。</p> <p>一方で、各医療チーム毎のアウトカム評価について工夫することや、 unnecessaryなパスを整理・改編する努力とその意見を吸い上げること、再入院率など新たな指標を検討してほしい。</p>
⑦ 危機管理対応力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・DMAT研修の参加件数が目標を下回った。 	○	○	<p>自病院の取組はしっかりなされているが、県の18災害拠点病院をリードする基幹拠点病院として、研修をはじめさらなる取組に努力されたい。</p> <p>また、災害時の職員のアクセスの状況、電気・ガス・水道などライフラインの確保対策、医療ニーズの把握、DMATとの連携など、事業継続計画(BCP)を早急に策定し、それを踏まえた検証訓練を要する。</p> <p>深刻な災害が珍しいことではなくなりつつある今、DMAT隊員の育成・研修はより充実させることが必要であるが、災害拠点病院として、DMAT出動件数が適切な指標ではないかもしれない。</p>
⑧ 地域連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・医師同伴での医療機関訪問、地域医師会との懇談会、病診連携カンファレンスの開催などを行い、紹介率・逆紹介率ともに目標を達成した。 	○	○	<p>地域の基幹病院として、地域での連携は重要であり、主だった指標は伸びている。</p> <p>また、医師同伴での医療機関訪問など、地域連携強化に向けて逆紹介や退院支援は拡大しており救急診療も含め、評価ができる。</p> <p>一方で、機器の共同利用やHMネット活用などの情報共有の連携状況がよく見えない部分がある。</p>
II 人材育成機能の維持				
⑨ 医療人材の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医数が目標を達成した。 ・新人看護師の離職率が目標を達成した。 ・院内研修への地域医療従事者の受入、職員の講師派遣件数とともに目標を達成した。 	◎	◎	<p>初期臨床研修マッチング率が100%達成するなど医師の確保・育成について大きな成果を上げており、若手医療者の研修の充実が感じられる。</p> <p>また、へき地医療拠点病院として、研修や診療支援に努力していること、新人看護師の離職率の大幅改善等の実績も評価できる。</p>

委員評価	委員意見 (各異見)
○8	<ul style="list-style-type: none"> ■QIの取り組みを公表すると同時に、今後は各医療チーム毎のアウトカム評価についても工夫ができると良い。(香川) ■DPC II 群継続。臨床検査部門のISO取得、他病院と比較した臨床指標の公開など、分かりやすい見える化が進められている。(木倉) ■ unnecessaryなパスを整理・改編する努力も必要、その意見を吸い上げているか。(木原) ■ 検査部門のISO取得を高く評価する。(谷田) ■ クリニカルパスの使用率が下がり、チーム医療の算定についても栄養サポート・摂食機能療法などで大幅に減った。一方、チーム医療について、認知症ケア・精神科リエゾンが始動するなど充実もなされたのがうかがえる。(吉村) ■ 医療の質を測定する指標としてパスでいいのか、再入院率など測定すべき。(和田)
○8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 災害時の職員のアクセスの状況、電気・ガス・水道などライフラインの確保対策、医療ニーズの把握、DMATとの連携など、事業継続計画(BCP)を早急に策定し、それを踏まえた検証訓練を要する。(香川) ■ 自病院の取組はしっかりなされているが、県の18災害拠点病院をリードする基幹拠点病院として、研修をはじめさらなる取組に努力されたい。(木倉) ■ 地域基幹病院として何が求められているのかであって、DMAT出動が適切なCIではないかもしれない。(木原) ■ いざという時の能力が維持されているものと評価した。(谷田) ■ 29年度段階では、事業継続計画(BCP)が備わっていないとのことなので。(平谷) ■ 深刻な災害が珍しいことではなくなりつつある今、DMAT隊員の育成・研修はより充実させることが必要。(吉村)
◎1 ○6 △1	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域連携強化に向けて逆紹介や退院支援を拡大している。また、機器の共同利用やHMネット活用などの情報共有の状況はよく見えない。(木倉) ■ 地域連携の強化については救急診療も含め評価できる。(木原) ■ 医師同伴での訪問を高く評価した。(谷田) ■ 地域の基幹病院として、地域での連携は重要。主だった指標は伸びており、一定の評価ができる。(吉村)
◎8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 初期臨床研修、専門医研修、コメディカル研修のほか、へき地医療拠点病院としても、研修や診療支援に努力している。(木倉) ■ 若手医療者の研修の充実が感じられる。(木原) ■ 新人看護師の離職率の大幅改善等の実績から。(平谷) ■ プログラムの充実で、初期臨床研修マッチングが100%達成となるなど、医師の確保・育成について大きな成果を上げている。また、新人看護師の離職率、医療人材の派遣など、指標の目標をクリアしている。(吉村)

【平成29年度 評価表(広島病院)】

取組方針	取組総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見 (とりまとめ案)
Ⅲ 患者満足度の向上				
⑩ 患者満足度の向上・広報の充実	・患者アンケートの患者満足度において、患者ご意見への対応、待ち時間を改善する取組を続けたこと等により、目標を達成した。	○	○	患者アンケートの実績から、十分な評価を得ていると考える。 一方で、患者待ち時間の短縮には限界があり、患者が待っても受けたい診療とは何かの視点が求められている。 また、患者の医療費負担削減を掲げるのであれば、後発医薬品の使用数量割合ではなく、金額での評価があると良い。
⑪ 業務改善	・継続してTQMに取り組み、手法取得者数(累計)の目標を達成した。 ・職員へのTQMへの理解を促進するため、活動未経験者への院内研修会を開催し、多くの職員がTQMへの理解が深まった。	◎	◎	TQMや5Sなど、興味深い取組が多数行われており、多くの職員が業務改善に参加したことを高く評価した。 また、院内での取り組みを推進しただけではなく、院外でも普及活動に力を入れ、地域医療の向上につながっている点も評価できる。
Ⅳ 経営基盤の強化				
⑫ 経営力の強化	・新規入院患者数は前年を大きく上回り、目標を達成した。 ・入院期間Ⅱ超え退院患者割合が前年より改善し、在院日数が短縮されたが、これらのことが病床稼働率の低下につながった。	○	○	病院を挙げて経営改善を推進している姿が評価できる。 また、新規入院患者数は大きく増えたが、在院日数の適正化により、病床稼働率が下がったことについては、高度急性期の機能を果たす上でやむを得ないと考える。 一方で、どのような患者が、いかなる経路で来院し、いかなる転帰となったかというマーケティング的な理解や説明が必要である。
⑬ 増収対策	・新たな加算の取得を行った事などにより、入院単価は目標を達成した。 ・診療報酬の加算について、新規取得や再取得を行った。	◎	◎	取組方針に示された増収対策は着実に実施され、効果を上げている。 また、収益の増加策を積極的に展開し、入院単価がアップするなど、一定の成果を出している。 一方で、取り組みが収益全体の視点からすると小さすぎず評価の対象とするのに妥当であるとは言えないこと、もっと高い単価を目指すべきと考えた。
⑭ 費用合理化対策	・材料費比率が上昇し、目標を下回った。	△	△	材料費比率の増加は、先進医療を行うためには一定程度仕方ない部分もあるが、増加要因の解析を行い、その是非を判断する必要がある。 患者負担の軽減の視点から適正な薬剤の利用の推進は必要であるが、費用の合理化は医療の内容に影響が出ない範囲で更に進めてほしい。 また、後発医薬品の費用削減額を目標に取り入れてほしい。 一方で、後発品への切り替え、共同購入、価格交渉、ベンチマークなどは、県立病院が取り組む費用合理化対策としては時代遅れである。

委員評価	委員意見 (各異見)
◎2 ○6	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の医療費負担削減を掲げるのであれば、後発医薬品の使用数だけではなく、金額による評価があるとよい。また、電子カルテと連動した、患者動線の改善を早急に図ることが求められる。(香川) ■患者アンケートでは満足度が上がっている。(木倉) ■待ち時間の短縮には限界があるのではないかと。患者が待っても受けたい診療とは何かの視点が求められる。(木原) ■待ち時間については、患者が納得する合理的な説明がなされることを期待する。(谷田) ■患者アンケートの実績を拝見すると、十分な評価を得ていると考える。(平谷) ■患者アンケートでは満足度が向上しており、評価できる。(吉村)
◎5 ○3	<ul style="list-style-type: none"> ■TQM, 5S, VMPSの具体的な活動が着実に継続されている。(木倉) ■多くの職員が業務改善に参加したことを高く評価した。(谷田) ■興味深い取組を多数行われているため。(平谷) ■TQMや5Sなど、院内での取り組みを推進しただけではなく、院外でも普及活動に力を入れ、地域医療の向上につながっている点は評価できる。(吉村)
◎1 ○6 △1	<ul style="list-style-type: none"> ■新規入院数は大きく増えた。一方、入院の短期化の取組もあって病床稼働率はやや下がっているが、高度急性期の機能を果たす上でやむを得ない。(木倉) ■病院を挙げて経営改善を推進しておられる姿がみえる。(木原) ■どのような患者が、いかなる経路で来院し、いかなる転帰となったかというマーケティング的な理解や説明が必要である。(谷田) ■病床稼働率は下がっているが、在院日数の適正化につながっているとすれば、やむを得ないかと思う。(吉村)
◎4 ○3 △1	<ul style="list-style-type: none"> ■取組方針に示された増収対策は着実に実施され、効果をあげている。(木倉) ■取り組みが収益全体の視点からすると小さすぎず、評価の対象とするのに妥当であるとは言えない。また、加算取得は期待される機能の発揮の結果である。(谷田) ■収益の増加策を積極的に展開し、入院単価のアップなど、一定の成果を出している。(吉村) ■もっと高い単価を目指すべしと思い、“○”とした。(和田)
◎4 △4	<ul style="list-style-type: none"> ■後発医薬品の費用削減額を目標値に取り入れられたい。(香川) ■共同購入の取組はH29.7から始まったばかり。小さな事項までしっかり取り組んでほしい。(木倉) ■材料費比率が上昇した要因解析を行い、その是非を判断する必要がある。(木原) ■後発品への切り替え、共同購入、価格交渉、ベンチマークなどは、県立病院が取り組む費用合理化策としては時代遅れである。(谷田) ■材料費の増加は、先進医療を行うためには一定程度仕方ないと思います。(平谷) ■患者負担の軽減の視点から適正な薬剤の利用の推進は必要。費用の合理化は医療の内容に影響が出ない範囲でさらに進めてほしい。(吉村)

【平成29年度 評価表(広島病院)】

取組方針	取組総括	自己評価	委員会 評価案	委員会意見 (とりまとめ案)
V 目標指標				
⑮ 決算の状況	・医業収益が前年から増加し、経常収支及び最終収支が目標を達成した。	○	○	医業収益向上の努力で、経常収支の黒字は増加し、目標を達成するなど評価できる。 また、県立病院の機能が発揮されたことが収益の拡大をもたらし、あるいは費用の合理化にむずびついたものと推測される。 一方で、経費が増加しているなど、さらなる経費削減の取組が必要である。
⑯ 目標指標の達成状況	・27項目中、未達成が5項目あるが、その他の項目においては目標を達成した。	○	○	27項目中22項目で目標を達成しており、多くの目標を達成している点を高く評価する。 一方で、合目的性について更なる検討を必要とする指標もあるため、PDCAサイクルの中で見直し項目を見出してもらいたい。

総合評価	<p>診療レベルの高さが探求されていることが、経営全体を良い方向に推し進めているものと考ええる。 また、より良い病院を職員一丸となって作ろうとの努力が形となっており、経営が良くなっている点を評価した。 一方で、現在の第6次病院事業経営計画で定められた実行計画の取組方針、取組項目、達成目標に照らして、多くの項目で前年度よりも改善されているが、地域医療構想が始まり、中長期的視点での点検も必要ではないか。</p>
------	---

委員 評価	委員意見 (各異見)
◎2 ○6	<ul style="list-style-type: none"> ■経常収支目標は達成しているが、経費も増加しており、さらなる経費削減の取り組みを図られたい。(香川) ■医業収益向上の努力で、経常収支の黒字は増加している。(木倉) ■県立病院の機能が発揮されたことが収益の拡大をもたらし、あるいは費用の合理化にむずびついたものと推測されることである。(谷田) ■前年より経常利益は増加し、最終収支も大幅に増加しているため。また、材料費増加はやむを得ない部分もあり、評価のためには内容吟味が必要である。(平谷) ■経常収支、最終収支が目標を達成している点は評価できる。(吉村) ■昨年よりも利益が増加しており、継続してほしい。(和田)
○8	<ul style="list-style-type: none"> ■27項目中22項目で目標を達成した。(木倉) ■既定の指標については、多くが目標達成されている点は高く評価できるが、合目的性について更なる検討を必要とする指標もあるので、PDCAサイクルの中で見直し項目を見出してもらいたい。(谷田) ■達成項目は多く、評価できる。(吉村)

◎4 ○4	<ul style="list-style-type: none"> ■現在の第6次事業経営計画で定められた実行計画の取組方針、取組項目、達成目標に照らして、多くの項目で前年度よりも改善されている。ただし、地域医療構想が始まり、中長期的視点での点検も必要ではないか。(木倉) ■より良い病院を職員一丸となって作ろうとの努力が形となっている。(木原) ■診療レベルの高さが探求されていることが、経営全体を良い方向に推し進めているものとする。(谷田) ■評価の基準がよく分からないが、相対的に昨年と比べると改善されていたり、進んでいた点が多く、今年も“◎”とした。(吉村) ■経営全般はよくなっている点を評価した。(和田)
----------	--

【平成29年度 評価表(安芸津病院)】

取組方針	取組総括	自己評価	委員会 評価案	委員会意見 (とりまとめ案)
I 医療機能の強化				
① 専門医療・政策医療	<ul style="list-style-type: none"> 手術件数は対目標・前年ともに下回り、新規入院患者数は減少した。 救急搬送受入件数は対目標・前年ともに上回り、救急医療体制の維持に貢献した。 	○	○	<p>専門医療について、人工関節置換術を専門とする医師がいることで、高齢者の多い地域の地域包括ケアに専門的な役割で貢献できている。</p> <p>また、政策医療について、大崎上島の小児健診や、地域の救急医療に貢献しているものと高く評価する。</p> <p>一方で、新入院患者数、手術件数は減少し、外来においても新外来患者数、内視鏡件数等も減少しているなど、今後は、地域における役割を考慮した目標設定も望まれる。</p>
② 地域包括ケアシステム構築への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 安芸津町内のケアマネとの定例会の開催や退院時支援の充実、歯科医師との連携など、地域の関係者との連携強化や、退院時から介護保険事業者のサービス提供までの橋渡し役としての訪問看護の強化を図った。 健(検)診件数は対目標・前年ともに上回ることができた。 	○	◎	<p>訪問看護実施数は、目標値・実績値とも4割超えと努力が見受けられ、健診件数も増加させるなど、地域包括ケアに向けて多大に貢献している。</p> <p>また、地域包括ケアの構築のために、地域のケアマネとの定例会や、患者の退院指導から退院後の継続支援、イベントでの健康相談等の啓発や、外来時を活用した個別の健康指導など、高齢者の多い地域の中核機関として、工夫した幅広い活動を行っており、医療・介護・予防の領域について、積極的に取り組まれているものと高く評価する。</p>
③ 医療安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> 転倒・転落発生率(レベル2以上)が前年より、0.006ポイント減少するなど、医療安全の確保に引き続き努めている。 	○	○	<p>毎月の医療安全、感染対策研修会が実施され、地域の医療機関や介護施設にも頻繁に研修を行っており、評価できる。</p> <p>一方で、研修会の開催回数は評価するが、職員参加率も評価すべきである。</p> <p>また、限られた職員でいかに患者の安全を支えてゆくの、これが安芸津病院に課せられた大きな課題ではないだろうか。</p>
④ 医療の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 多職種連携、チーム医療に取り組んでいる。 認知症患者の増加に伴い、認知症ケアチームの活動が増加した。 	○	○	<p>地域包括ケアシステムにおいて、認知症ケアチームの活動はますます重要性を増すものであろうから、知見を蓄積してほしい。</p> <p>また、地域包括ケアの完成という目標に向けて、多職種チームの多面的な活動が行われており、高齢者の特性に応じたケアの質を高めて、在宅復帰支援の役割を果たそうとする努力がみられる。</p> <p>一方で、パスの実施数を論じる際には、病院の役割を考慮した目標値の設定が必要ではないか。</p>
⑤ 危機管理対応力の強化	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策については、職員にマニュアルの順守を徹底するとともに、入院患者への面会制限等を適切に実施し、インフルエンザ等のアウトブレイクを回避した。 院内の防災・感染症対策はもとより、地域の防災・感染症対策に積極的に取り組んでいる。 	○	○	<p>感染症対策について、院内のみにとどまらず、地域の医療介護施設への指導に努力している点を高く評価した。</p> <p>一方で、職員に対する安全管理はどうか。</p>

委員 評価	委員意見 (各異見)
○8	<ul style="list-style-type: none"> 診療実績では、地域包括ケアシステムと関連した実績は増進した。しかし、新入院患者数、手術件数は減少し、外来においても新患者数、内視鏡件数等も減少している。今後は、地域における役割を考慮した目標設定も望まれる。(香川) 専門医療について、人工関節置換術を専門とする医師がいることで、高齢者の多い地域の地域包括ケアに専門的な役割で貢献できている。また、政策医療について、安芸津の病院群輪番制、大崎上島の小児健診に貢献している。(木倉) 地域の救急医療に貢献しているものと高く評価する。(谷田) 手術件数の対前年・目標比ダウンはあるものの、救急搬送の受け入れは伸び、貢献がうかがえる。(吉村) 手術、入院患者ともに減少した。(和田)
◎6 ○2	<ul style="list-style-type: none"> 訪問看護実施数は、目標値・実績値とも4割超えと努力が見受けられ、地域包括ケアに向けて多大に貢献している。(香川) 地域包括ケアの構築のために、地域のケアマネとの定例会や、患者の退院指導から退院後の継続支援まで積極的に関与し、自院の訪問看護も大きく拡大している。また、イベントでの健康相談等の啓発や、個別にも外来時を活用した健康指導、診察フォローなど、高齢者の多い地域の中核機関として、工夫した幅広い活動を行っており、高く評価できる。(木倉) 地域に対する病院としてのミッションを見出し、その実践が実り始めている。(木原) 医療・介護・予防の領域について、積極的に取り組まれているものと高く評価する。(谷田) 訪問看護や検診件数などの重点指標が対目標・前年比とともに上回り、地域に根差した医療の在り方が評価できる。(吉村) 訪問看護実施数や検診件数の増加を評価した。(和田)
◎2 ○6	<ul style="list-style-type: none"> 医療安全・感染対策研修会の開催回数は評価するが、職員参加率も評価すべきではないか。(香川) 毎月の医療安全、感染対策研修会が実施され、地域の医療機関や介護施設にも頻繁に研修を行っている。(木倉) 限られた職員でいかに患者の安全を支えてゆくの、これが安芸津病院に課せられた大きな課題ではないだろうか。(木原) 取り組み総括から一定の評価ができる。(吉村)
○8	<ul style="list-style-type: none"> パスの実施数を論じる際には、病院の役割を考慮した目標値の設定が必要ではないか。(香川) 地域包括ケアの完成という目標に向けて、多職種チームの多面的な活動が行われており、高齢者の特性に応じたケアの質を高めて、在宅復帰支援の役割を果たそうとする努力がみられる。(木倉) 認知症ケアにおけるルーチンの確立は地域病院のキーポイント、地域施設との連携も含め。(木原) 地域包括ケアシステムにおいて、認知症ケアチームの活動はますます重要性を増すものであろうから、知見を蓄積してほしい。(谷田) クリニカルパスについては適用率が下がったものの、認知症ケアや糖尿病教室など医療の質の向上に取り組んでいる。(吉村)
◎1 ○7	<ul style="list-style-type: none"> 地域の防災活動に継続して参加している。また、感染症対策についても、地域の医療介護施設への指導に努力している。(木倉) 職員に対する安全管理はどうか。(木原) 院内のみにとどまらず、地域に対象を拡大している点を高く評価した。(谷田) 取り組み総括から一定の評価ができる。(吉村)

【平成29年度 評価表(安芸津病院)】

取組方針	取組総括	自己評価	委員会 評価案	委員会意見 (とりまとめ案)
II 人材育成機能の維持				
⑥ 医療人材の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修医の地域研修の受入や医療スタッフの派遣に取り組んだ。 ・学生実習等、医療人材の育成に取り組んでいる。 	○	○	<p>高齢者の多い課題先進地域であることを活かし、医師の初期臨床研修等を目標以上に受け入れ、訪問にも同行させて、総合診療育成に貢献している。</p> <p>また、医師や専門職の人材確保は、この地域では難しい点もある中、大崎上島町への医療支援や、看護師の実習生の受入増加など、評価する。</p>
III 患者満足度の向上				
⑦ 患者満足度の向上・広報の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・患者アンケートによる満足度は入院・外来とも98%前後の高水準となっている。 ・院外広報誌の発行、町広報誌等への寄稿や医療公開講座、出前講座、各種イベントへの参加を通じ、地域への医療情報の発信などに積極的に取り組んだ。 	○	◎	<p>患者アンケートの満足度は入院、外来とも極めて高く、地域患者・住民の安芸津病院への期待と評価が表れている。</p> <p>また、ボランティアスタッフの患者視点での声を改善に反映させていること、公開講座や出前講座に大変熱心に取り組んでいるなど、評価できる。</p> <p>一方で、満足度の評価に対して、外来患者数の増加には結びついていない。</p>
⑧ 業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・TQM活動、5S活動に継続的に取り組み、TQM活動2年目となり、サークル数を前年より増やし、TQM手法の習得者の拡大に取り組んだ。 	○	○	<p>TQMサークル、5S活動に継続的に取り組んでおり、一定の評価ができる。</p>
IV 経営基盤の強化				
⑨ 経営力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週月曜の病床管理ミーティングの実施など、円滑な病床管理の促進に取り組む、病床稼働率も引き続き前年を上回ることができた。 	○	○	<p>病床管理ミーティングによる一体的な病床利用が図られている点を高く評価した。</p> <p>また、地域包括ケア病床数の見直しが図られ、その稼働率は高水準を保っている。</p> <p>今後も地域のニーズに沿った運営と在宅復帰支援を引き続き行ってもらいたい。</p>
⑩ 増収対策	<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者数は増加し、新たな加算の取得を図ったが、手術等の減により、入院収益は対目標・前年ともに下回った。 	○	○	<p>入院単価は下がったが、診療報酬の加算への対応は努力しており、未収金対策はよく成果をあげている。</p> <p>一方で、手術を増やすことが病院の目標ではないことがはっきりしたのならば、目標設定を変えればよい。</p>
⑪ 費用合理化対策	<ul style="list-style-type: none"> ・後発医薬品の利用を継続して拡大し、各種契約内容の見直しを行い、経費削減に取り組んだ。 	○	○	<p>後発医薬品は大きく利用が進んでおり、経費削減は小さな事項まで丁寧に努力している。</p> <p>一方で、後発医薬品については、使用数のみならず、金額比率についても指標化を図られた。</p> <p>また、費用が合理的に収益と結びついているか、あるいは事業目的に適合しているかを示してもらいたい。</p>

委員 評価	委員意見 (各異見)
◎1 ○7	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢者の多い課題先進地域であることを活かして、医師の初期臨床研修等を目標以上に受け入れ、訪問にも同行させて、総合診療育成に貢献している。また、大崎上島町への医療支援に努力している。(木倉) ■広島病院に対してどこまで対等に人事の話ができるのか。(木原) ■医師のキャリアアップにつながる取り組みを高く評価した。(谷田) ■医師や専門職の人材確保は、この地域では難しい点もあるだろうが、研修・実習などの育成には取り組んでいる。(吉村) ■医師の派遣を行っていること、看護師の実習生の増加。(和田)
◎5 ○3	<ul style="list-style-type: none"> ■患者アンケートの満足度は入院、外来とも極めて高く、ボランティアスタッフの患者視点での声も改善に反映されている。また、公開講座や出前講座に大変熱心に取り組んでいる。(木倉) ■地域患者・住民の安芸津病院への期待と評価が表れている。(木原) ■患者満足度98%は驚異的な結果である。(谷田) ■いずれの指標も達成できているため。(平谷) ■満足度が極めて高く評価できるが、外来患者数の増加には結びついていない。(吉村)
○8	<ul style="list-style-type: none"> ■TQMサークル、5S活動に継続的に取り組んでいる。(木倉) ■取り組み総括から一定の評価ができる。(吉村)
○7 △1	<ul style="list-style-type: none"> ■地域包括ケア病床数の見直しが図られ、その稼働率は高水準を保っている。今後も地域のニーズに沿った運営と在宅復帰支援を引き続き行ってもらいたい。(香川) ■データ分析を共有して適切な病床管理に役立っている。また、地域包括ケア病床もよく機能し、若干だが平均在院日数の短期化が進んでいる。(木倉) ■努力が数字として表れている。(木原) ■病床管理ミーティングによる一体的な病床利用が図られている点を高く評価した。(谷田) ■取り組み総括から一定の評価ができる。(吉村)
○7 △1	<ul style="list-style-type: none"> ■診療報酬の加算への対応は努力しており、未収金対策はよく成果をあげている。(木倉) ■手術を増やすことが病院の目標ではないことがはっきりしたのならば、目標設定を変えればよい。(木原) ■入院単価は下がったが、未収金の改善など評価できる。(吉村)
○6 △2	<ul style="list-style-type: none"> ■後発医薬品については、使用数のみならず、金額比率についても指標化を図られた。(香川) ■後発医薬品は大きく利用が進んでおり、経費削減は小さな事項まで丁寧に努力している。(木倉) ■費用が合理的に収益と結びついているか、あるいは、事業目的に適合しているかを示してもらいたい。(谷田) ■経費削減策を積極的に推進したことがうかがえ、後発医薬品の割合もかなり高まっている。(吉村)

【平成29年度 評価表(安芸津病院)】

取組方針	取組総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見 (とりまとめ案)
V 目標指標				
⑫ 決算の状況	<ul style="list-style-type: none"> 入院患者数は増加したにもかかわらず入院収益が目標を下回ったが、経常収支は目標を上回ることができた。 経常収支の黒字化は達成できなかった。 	△	△	<p>経常収支の黒字化までにはいかなかったが、もともと苦しい中で地域医療を支える視点を実施し、それでも収支を悪化させなかったことは大成功ではないか。</p> <p>また、改善努力の効果は出てきており、引き続き経費節減、収益アップに取り組んでもらいたい。</p>
⑬ 目標指標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 多くの目標は達成できたが、手術件数・内視鏡検査件数については目標の9割程度に留まり、未達成となった。 	△	○	<p>未達成の手術件数は、人工関節置換術など努力しているが、人口減少と高齢化進行でやむを得ない面はある。</p> <p>また、地域包括ケア病床の在宅復帰率や訪問看護実施数は高く、在宅支援の目的意識の高さが伺える。</p> <p>一方で、地域医療に貢献する指標は達成しているが、損益に影響する指標は未達成である。</p>

総合評価			○	<p>人口減少、高齢化の地域における地域包括ケアシステム構築に向けてのモデル的な取り組みがなされている点を高く評価した。</p> <p>また、県立病院として島しょ部・中山間地においてどのような医療を実践できるのかのプロトタイプの提示・ミッションの表現に近づいており、そのチャレンジは大いに評価したい。</p> <p>一方で、大変経営が厳しい施設規模であり、特に人件費が経営を逼迫させているため、29年度に病床を再編したが、更に病床機能、外来特性を見直し、機能のあり方について検討願いたい。</p> <p>また、地域包括ケアの完成イメージが共有できていないという課題認識について、地元自治体のリーダーシップを促して、医療介護のサービス主体が繰り返し集まって、「時々入院、ほぼ在宅」のサイクルにおける役割分担と連携の完成の姿を追求して欲しい。</p>
------	--	--	---	---

委員評価	委員意見 (各異見)
○1 △7	<ul style="list-style-type: none"> 経常収支の黒字化までにはいかなかったが、改善努力の効果は出てきている。(木倉) もともと苦しい中で地域医療を支える視点を実施し、それでも収支を悪化させなかったことは大成功ではないか。(木原) 経常収支の黒字化までとわずかで、引き続き経費節減、収益アップの取り組みが必要。(吉村)
○5 △3	<ul style="list-style-type: none"> 手術件数、内視鏡件数の増加に向けた取り組みを。(香川) 未達成の手術件数は、人工関節置換術など努力しているが、人口減少と高齢化進行でやむを得ない面はある。また、地域包括ケア病床の在宅復帰率や訪問看護実施数は高く、在宅支援の目的意識の高さが伺える。(木倉) 目標はほぼ達成している。(平谷) 比較的達成の項目が多く、評価できる。(吉村) ほとんどの指標をクリアしている。損益に影響する指標が未達成であったが、地域医療に貢献する指標は達成している。(和田)

◎1 ○7	<ul style="list-style-type: none"> 大変経営が厳しい施設規模でもあり、特に人件費が経営を逼迫させている。29年度に病床再編されたが、更に病床機能、外来特性を見直し、機能のあり方について検討願いたい。(香川) 中山間の高齢者の多い地域で、在宅復帰、在宅支援の目標意識を明確にして努力している。また、地域包括ケアの完成イメージが共有できていないという課題認識については、地元自治体のリーダーシップを促して、医療介護のサービス主体が繰り返し集まって、「時々入院、ほぼ在宅」のサイクルにおける役割分担と連携の完成の姿を追求して欲しい。(木倉) 県立病院として島しょ部・中山間地においてどのような医療を実践できるのかのプロトタイプの提示・ミッションの表現に近づいており、そのチャレンジは大いに評価したい。(木原) 人口減少、高齢化の地域における地域包括ケアシステム構築に向けてのモデル的な取り組みがなされている点を高く評価した。(谷田) 各項目の評価を前年と比べるとほぼ横ばい。総合評価が前年「○」なので、今年も「○」とした。(吉村)
----------	--